

日本大学理工学部土木工学科 「土木女子の会」の取組



岸井 隆幸

KISHII Takayuki

日本大学理工学部
土木工学科
教授
土木女子の会顧問



重村 智

SHIGEMURA Satoshi

日本大学理工学部
土木工学科
准教授
土木女子の会顧問



三友 奈々

MITOMO Nana

日本大学理工学部
土木工学科
助教
土木女子の会顧問



熊野 直子

KUMANO Naoko

日本大学理工学部
土木工学科
助手
土木女子の会顧問

2020年に創設100周年を迎える日本大学理工学部土木工学科は、これまでに3万人を超える卒業生を官公庁や土木分野の各業界に輩出してきた。

その中であって、土木工学科が初めて女子学生を世に送り出したのはいまから45年前の1970年。その後も、土木を目指す女子学生を輩出し、2000年以降は、毎年、二桁の卒業生が巣立っている。この間、女子学生の親睦を目的とする「土木女子の会」も、発足から既に20年が経過した。

本稿では、近年の女子学生を取り巻く環境の変化に触れつつ、同会の取り組みを紹介する。

はじめに

日本大学理工学部土木工学科（以下、「土木工学科」という）においては、1994年に「土木女子の会」（以下、「本会」という）が結成された。

土木工学科は、1920年（大正9年）に創設された我が国の私立では最古参の土木工学科であるが、その後、1947年に工学部、1952年に生産工学部が生まれ、今日に至っている。しかも、工学部にも生産工学部にも土木工学科があることから、日本大学全体では土木工学科の定員は3学部合わせて約550名に上り、全国の土木関連学科卒業生の1割弱を本学の卒業生が占めている。

昔からバンカラのイメージが強い日大であるが、いまや土木工学科においても、女子学生は、全体の概ね5～7%程度入学してくる。しかし、依然として女子が少数派であることは否めず、本会の誕生も、学年内及び学年を超えた絆を築く目的からであった。

当初は、OGや教員との交流会を開催し、先輩等の話を聞くことが本会の活動の中心となっていたが、数年前からは社会の様々な舞台に出ていく等、積極的な活動を

繰り広げている。

本稿で、本会のこうした活動の一端をご披露する。なお、2015年3月現在、土木工学科には女子学生71名が在籍している。本会では毎年春に総会を開き3年生から幹事長1名、副幹事長若干名を選出し、彼女たちが中心となって一年間の企画を立て、活動を進めている。

1. 活動の概要

本会は、土木分野を目指す女子学生間での情報交換と情報共有、社会で活躍する女性技術者との交流、土木を学ぶ女子学生による社会へのPR等を目的として結成された。この数年間の活動内容を整理すると、

- 1) OGや教員との交流活動
 - 2) 学外で行われる様々な社会活動への参加、現場見学会あるいは女性土木技術者との交流
 - 3) オープンキャンパスや学内の「シビルエキスポ」等における高校生向けの広報活動
- となる。それぞれ簡単にご紹介しよう。

学内活動は春のオリエンテーションから始まる。ガイダンスの初日、幹事団を中心に1年生の各クラスを回って本会の活動を紹介し、積極的な参加を呼び掛けている。4月半ばには年間活動を決定する総会を行い（写真-1）、その日の夜には教員も交えた交流会を開催している。

総会で、前年度の活動報告や新年度の活動を議論するとともに、4年生が就職活動の状況を説明、3年生、2年生はそれぞれの学年での授業のとり方等を披露する。すなわち、1年生にとっては、最初の時点で“縦方向の繋がり”を感じることができる仕組みとなっている。

その後、タイミングを見計らって、OGをお招きしての懇談会や4年生の就職活動報告会等を実施する。出席されたOGからは、職場環境、出産、育児休暇、家庭と仕事の両立をはじめ、女性技術者を取り巻く社会環境に関して、様々なお話をうかがっている（写真-2）。



写真-1 「土木女子の会」の総会風景



写真-2 就職活動報告会の様子

学外での活動は、2008年、本大学の学園祭に御茶ノ水駅再開発プロジェクトの模型を出展したのが始まり。翌2009年には、渋谷で行われているイベント「shibuya 1000」に参加し東急渋谷駅の地下空間において、「ハチ公前広場のコンセプトデザイン」と称して、ハチ公前広場の将来像を示す模型展示を行った。

その後、2010年から2013年までの間は、東京都建設協会が新宿西口広場で開催している「まちづくり展」に参画し、東日本大震災における宮城県女川町や南三陸町での津波の状況を示した模型の展示、隅田川公園の再整備プロジェクトの提案、そして、東京の地盤に関する実験装置の展示等を行っている（写真-3, 4, 5）。

昨年は「まちづくり展」が終了してしまったため、秋のシビルエキスポ（高校生向けの土木工学科展示会）で、夢の島公園再開発プロジェクトの提案を行った。

こうした展示や出展以外にも、女性が働く現場の見学会も積極的に実施しており、現場に行けば、すでに心は一人前の「女性土木技術者」となっている（写真-6）。

また、時々、外部の方々からお声掛けを頂き、各地で行われる様々なイベントにも協力・参加している。



写真-3 「まちづくり展 2011」
津波被災地の高台移転問題等をテーマに出展

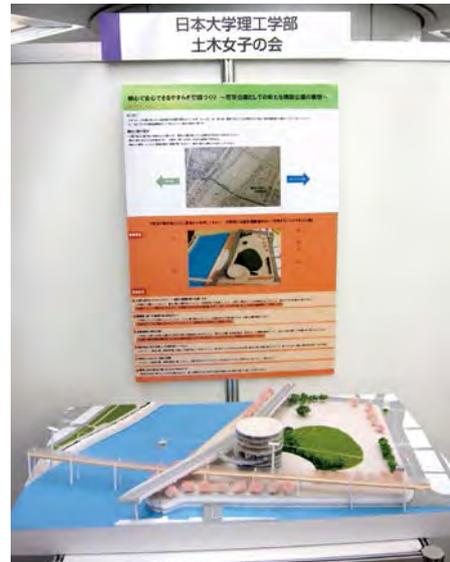


写真-4 「まちづくり展 2012」
隅田川にロープウェイを提案！



写真-5 「まちづくり展 2013」
東京を支える地盤の支持力を模型地盤で体感！



写真-6 中央環状線五反田出入口工事(首都高(株)発注)の現場見学では女性技術職員への質問がつきません

例えば、一般社団法人まちふねみらい塾が主宰する「わくわく・すいすい水辺探検」では、小学生とともにまちづくりについて考えるワークショップのお手伝いをしている。今年2月には、千葉県成田市の成田ゆめ牧場で行われた「全国穴掘り大会」にも参加し、逞しさを前面に出して心地よい汗を流した(写真-7)。

さらに、本会の活動を広く高校生に理解してもらおうと、大学のオープンキャンパス等で独自のブースを設置し、活動内容の紹介を行っている。オープンキャンパスにお越し頂ければ、女子高校生に親しく土木の話をしている(勇猛な穴掘り姿とは異なる)優しいお姉さんたちの姿を見ることができる。



写真-7 全国穴掘り大会に初出場
順位は…、来年も挑戦するそうです

2. 不安や悩みを仲間と共有

本会の活動は21年目に入った。男性中心だった土木の世界に、自らの意思で飛び込んでくる女子学生たちであるだけに、やる気に満ちていると言えなくもないが、そこはやはり若い女性、不安があるのも事実だ。

そうした不安や悩みを共有できる仲間を見つけることができることこそ、本会の最も大きな効果である。その意味で、「土木女子の会」は確実に土木工学科女子学生の“縦横の連携”を深める機会を提供している。

同時に、本会の活動に参加することによって、女子学生の積極性や行動力がより一層磨かれ、社会からも高く評価されるという副次効果も生み出している。

実際、本会の活動に積極的に参加していることは就職活動においても高く評価されることが多く、幹事役を引き受けた学生の就職活動は極めて順調である。彼女たちの実績は、次に続く女子高校生たちには、道標として、安心感をもたらすものであり、土木工学を目指す新しい仲間を増やす効果もあると考えている。

表-1 近年の女子学生の就職状況

職種	卒業年度				計
	H23	H24	H25	H26	
1. 建設業	3	0	6	9	18
2. 建設コンサルタント	0	4	4	1	9
3. 国・地方自治体	3	3	5	4	15
4. 独立行政法人	1	0	0	0	1
5. 鉄道・運輸業	1	1	0	0	2
6. エネルギー業	0	1	0	0	1
7. 不動産業	2	0	0	0	2
8. 進学	0	1	0	1	2
9. その他	1	2	1	2	6
計	11	12	16	17	56

3. 今後の目標

本会は現在、日本大学理工学部土木工学科の女子の会であるが、これからは、さらに広い世界に出ていくことが必要ではないかと考えている。すなわち、本学の他の学科や学部だけでなく、他の大学、さらに、社会で活躍している女性土木技術者のみなさんとも、もっとしっかりとした接点を確立する必要があると思う。もちろん、それを教員側で段取りすることもできるが、我々としては、できるだけ学生たちの自主的な取り組みによって、活動の幅が広がることを期待している。



写真-8 元気でパワフル！でも繊細な女子学生
(総会後の交流会より)

おわりに

最後に、本会の活動に参加している女子学生の感想を紹介して、本稿の結びとしたい。

まちづくり展で、通りがかった一般の方（おばあちゃん）から、「土木を勉強し、職業としている女性が増えてきているのは知らなかった。男性の職業というイメージが強いけど、頑張ってる！」とお声掛けいただいた。

大手ゼネコン（総合建設会社）の女性技術者の方とお会いするのは初めてでしたが、目をキラキラさせながらイキイキとお仕事をされていて、現場作業が楽しい、生きがいであるということが見ているだけで伝わってきました。そんな現場で働けるということは、長い人生の中でも誇りになるのではないかと思います。

自分が思っていた以上に、現場の女性技術者の方々が輝いて見えました。土木技術者の場合は「女性だから」という壁はもはや存在しません。自分が仕事にどれほどのやりがいを求めているか、その意欲をしっかりと社会に示していけるかどうかが一番重要だと感じました。

高校時代、生徒会活動に打ち込み過ぎ、まったく勉強しなかった。進路相談で「何がしたいんだ」と聞かれ、「デカイことがしたい」と言ったら土木を紹介された。現場を見て、実際デカイことやっていると。ただし、デカイものをつくるためには、毎日の計画やお金の処理、安全点検等、細かいことをやってようやくデカイものができていくんだということがわかった。

現場の人から、大学での勉強が基礎の基礎で、本当に大切だと言われると、授業中に「勉強しろ」と言われる場合よりもやる気になる。

（質問）どうしても結婚したいんですけど、できますか？

（OGの答え）できると思うよ。何事もやりよう。

首都高速中央環状線の工事現場を訪ねて、女性技術者の活躍を間近で見学しお話を聞く機会を得ました。仕事にやりがいを感じ、いきいきと現場を指揮されている様子から、私も土木技術者として社会基盤をつくり、社会貢献したいという強い思いが改めて生まれました。

土木工学科は分野が幅広く、仲間も多いので、様々な人たちや自分自身の新たな一面に出会えると思います。人の役に立てる土木工学と一緒に学びませんか。

（シビルエキスポにおける、女子学生による女子高校生に対する呼び掛けから）